

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	20-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol Use Disorder and Risk of Suicide in a Swedish Population-Based Cohort スウェーデン住民を対象としたコホート研究に基づくアルコール依存症と自殺のリスク		
執筆者		
Edwards AC, Ohlsson H, Sundquist J, Sundquist K, Kendler KS.		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2020 Jul 1;177(7):627-634. doi: 10.1176/appi.ajp.2019.19070673.		
キーワード	PMID	
アルコール依存症、相互相対的デザイン、精神障害、自殺	32160767	
要 旨		
<p>目的： 著者らは、精神医学的併存症の考慮の有無別に、アルコール依存症（AUD）と自殺リスクとの関連と、観察された関連に両方のリスクを増加させる潜在的な因果メカニズムまたは遺伝的・家族的な環境交絡因子がどの程度影響するかを評価した。</p> <p>方法： 縦断的人口全体のスウェーデンの医療、犯罪および薬局の登録情報を使用して、AUD の病歴に応じた自殺による死亡のリスクを評価した。分析には、1950 年から 1970 年の間に生まれ、15 歳になった時点から 2012 年まで観察できた 2,229,880 人のネイティブスウェーデンを対象に、前向きコホートおよび相互相対的デザインを採用した。</p> <p>結果： 観察期間中の生涯自殺率は、AUD のない女性と男性のそれぞれ 0.29% と 0.76% と比較して、AUD のある女性で 3.54%、男性で 3.94% だった。調整後も AUD は自殺と強い関連を示しており、調整ハザード比は、観察期間（最長 300 ヶ月以上から最短 0-59 ヶ月）に応じて、女性では 2.61 から 128.0、男性では 2.44 から 28.0 の範囲であった。相互相対分析では、家族性の交絡因子が、観察された関連のすべてではないがいくつかの関連を説明した。他の精神医学的診断の病歴を考慮した場合も、実質的で潜在的な因果関係が残っていた。</p> <p>結論： AUD は自殺の強力な危険因子であり、交絡因子を考慮した後も実質的な関連性が持続している。これらの調査結果は、他の精神疾患の状況を加味しても、自殺リスクに対する AUD の影響を強調しており、医療面および犯罪面で AUD を直ちに登録することがアルコール関連の自殺を減らす取り組みに重要であることを示唆している。</p>		